第１１回　幸福師匠！おーえん会（報告）

令和６年９月７日（土）に岐阜市神田町の喫茶店星時で**「登龍亭幸福・旭堂鱗林二人会」**が開かれました。今回は 10 人のメンバーが参加しました。

〇登龍亭幸福師匠の落語は、『田能久』でした。

あらすじ：★この話の主人公は、阿波（徳島県）の“田能”村で、母と二人で暮らしている、“久”兵衛という男です。「田能久（たのきゅう）」と呼ばれる彼は演劇が好きで、自ら劇団を立ち上げて、方々で公演するほどでした。物語は、その田能久一座が、伊予（愛媛県）の宇和島へ遠征したところから始まります。母の病気を気遣った田能久が、帰り道の峠の山小屋で「杖をついた老人に化けたウワバミ（大蛇）」と出会い、「たのきゅう」を「たぬき」聞き間違え、役者の田能久が機転を利かせ「役者のかつらを次々と被り、化け上手で信用させる話で、機転を利かせて危機を乗り越えるという内容です。

「ウワバミ」は、伝説や物語の中でしばしば登場する巨大な蛇の妖怪で、いろいろな悪事を働くことが多く、①人を襲う：ウワバミは人間を襲って食べることがあるとされています。特に夜道を歩く人々を狙うことが多いです。②家畜を襲う：農村部では、家畜を襲って食べることもあります。これにより、農民たちにとって大きな脅威となります。③化ける：ウワバミは人間や他の動物に化ける能力を持っているとされ、これを利用して人々を騙すことがあります。④財宝を守る：一部の伝説では、ウワバミが財宝を守っているとされ、その財宝を手に入れようとする人々を襲うことがあります。これらの特徴から、ウワバミは恐ろしい存在として描かれることが多い様です。この地域の文化や風習が有名な落語の題材の一つにされました。

幸福師匠の落語：★阿波あわ(徳島県)の在(奥まったところ)の田能村（たのうむら）に住む久兵衛は、小さいころに父親を亡くし母親と二人暮らしです。芝居が上手で、村のお祭りでは役者を務め、近所で評判を取っていました。村芝居の人気者となり、とうとう趣味が高じて「田能久一座」を結成し、本業の百姓をそっちのけであちこちを興行して歩いています。ある日、役者の田能久のうわさが広がり、伊予宇和島(愛媛県)の 10 日間の芝居を受けることになりました。これが大好評となり、興行も順調に進み興行主からのお礼の招待を受けます。その時に、「母に心配事が出来た・・・・・」との知らせが故郷から届きました。親孝行なたちなので、田能久は一人急いで帰ることにしました。急いたので、愛用のかつらだけを風呂敷に包み、阿波への帰り道を急いぎます。

里帰りをしている途中、空は雨が降りそうです。村人は、夜の峠の山道で怪しい大男が出る噂を伝えますが、一刻も早く帰り田能久は、親切にも夕飯のおにぎりをもらい、それを懐にしまい込んで、夜道を出かけます。途中、法華津峠（ほけつとうげ）を越え、さらに鳥坂峠（とさかとうげ）に差しかかると、一天にわかにかき曇り、雨がポツリポツリと降り出しました。山から下りてきた木こりに、この峠は化け物が出るという噂だから、夜越しはやめろと忠告された。しかし母親の病状が気にかかり、それを聞き流して山越えにかかります。

ここからは、田能久と蟒蛇（ウワバミ）の化け具合のやり取りを会話形式で伝えたいと思います。幸福師匠の落語を忘れてしまった所が多いので、YouTube で落語見て捕捉しました。

山中でとっぷり日が暮れ、途方にくれていると、木こり小屋があったので、これ幸いと、そこで夜明かしをすることに決めました。昼間の疲れでぐっすり寝込んだ田能久は、山風の冷気で夜中にふと目を覚ますと、白髪で白髭の老人が枕元に立っている。他人の家に無断で侵入したことを不利に思い、気味が悪いので狸寝入りを決めます。しかし、この老人は、実は蟒蛇（ウワバミ・大蛇）の化身でした。

老人（蟒蛇）：おい、目を開いたままイビキをかくやつがあるか。人間の味もすっかり忘れていたから、素直にオレの腹の中へ入れ（舌なめずり）。

（田能久は震えあがり、実は母親が病気でこれこれと泣き落としで命乞いするが、もちろん聞いてはくれません。田能久、そこでとっさの機転で、「狸で人間に化けているだけだ」と、うそをついた）
田能久： あの……あなたは……？
蟒蛇:俺は、この峠に古くから住む、ウワバミだ。
田能久:ウ、ウワバミ!?
蟒蛇:普段はこの老人の姿に化けて、峠に迷い込んできた者に近づき、丸呑みにしておるのだ。
田能久： あ、あの……ご、ご、ご勘弁ください！
蟒蛇:ダメだ。俺だって人間を呑むのは久しぶりなんだ。
田能久:そ、そこをどうにか！
蟒蛇:ダメだと言っているだろう。最期に名前だけでも聞いといてやる。お前は、どこの何という者だ？
田能久:わ、私は……あわあわあわ……。阿波の……た、た、た、たのきゅ……。
蟒蛇:なにぃ!? 狸だと!? そりゃあダメだ。狸の味は、あまり好かない。
（ウワバミは「ふーん」これが本当の狸寝入りか。「阿波の徳島は狸の本場と聞いたが、呑むものがなくなって狸を呑んだとあっちゃ、ウワバミ仲間に顔向けできねえ」と、しばし考え、「本当に狸なら化けてみせろ」と言う）
田能久:えっ……あっ……。
蟒蛇:それにしても、お前は人間に化けるのが上手いなぁ。ほかの物にも化けてみてくれよ。
田能久:い、いや……。私は、この姿にしか化けれないもんで……。
蟒蛇:なにぃ？「狐は七化け、狸は八化け」って言うじゃねぇか！ お前、本当は狸じゃないんじゃ……。
田能久:化けます！ 化けます！ でも、人前じゃ化けれないもんで、ちょっと後ろを向いててもらえませんか？
（田能久を「たぬき」と勘違いし、何かに化けて見せろと言います。これには困ったが、ふと風呂敷の中のかつらを思い出し、田能久は芝居で使った長髪のカツラを取り出し、女性を演じる）
蟒蛇:おお、人間の女か！ 上手く化けるもんだなぁ。ほかにも化けてくれよ！
（次に田能久は坊主のカツラを付け、お坊さんを演じる）
蟒蛇：やっぱり、お前は上手いなぁ！ ありがとう。楽しませてもらったよ。どうだい、俺と友達にならねぇか？
田能久:友達……ですか？
蟒蛇:ああ。友達になって、俺にも上手な化け方を教えてくれよ。
田能久:わ、わかりました。よろしくお願いします。
（ウワバミはすっかり感心して、オレの寝ぐらはすぐそばなので、帰りにぜひ尋ねてきてくれと、信用してしまった。田能久は恐怖に震えながらも、煙草を取り出して気を紛らわせようとします。すると、ウワバミは煙草の煙が大嫌いだと言い、田能久にも嫌いなものを尋ねます）
蟒蛇:よし。そこで……だ。仲良くなるには、お互いのことをよく知らないといけねぇ。お前は、何が好きで、何が嫌いなんだ？
田能久:えーと……好きなものは、たくさんあって挙げきれませんが、嫌いなものは１つ、パッと思い浮かびます。
蟒蛇:それはなんだ？
田能久:お金です。
蟒蛇:カネ？ どうしてだ？お寺の鐘の音が怖いのか？
田能久:違います、人間が使うお金です。
蟒蛇:どうしてだ？

田能久:私はこれまで、お金のために喧嘩したり、人を恨んだり、挙げ句の果てには人を殺したり……嫌なことをたくさん見聞きしてきました。世の中に金銭ほど、怖いものはありません。
（田能久は「金が仇の世の中だから、金がいちばん怖い」と口から出まかせ言う）
蟒蛇:なるほどなぁ。それでいうと、俺は「タバコのヤニ」と「柿の渋」が嫌いだ。この２つが体に付くと、皮膚が溶け骨まで腐ってしまう。
田能久:そ、そうなんですか……。
蟒蛇:ああ、これは俺とお前だけの秘密だぞ。
田能久:わかりました。
蟒蛇:こういう「秘密の共有」ってのは、二人の仲を深めると聞いたことがある。今夜は、このまま語り明かそうじゃねぇか。
田能久:あ、あの……実はですね……。私の母の具合が悪いらしく、今は故郷に帰っている途中なんです。
蟒蛇:おや、そうだったのか。それは足止めさせて、すまなかったな。そういうことなら、早く帰ってやれ。
（夜が明けて、オレに会ったことは決して喋るなと口止めされ、ようよう解放された）
田能久:ありがとうございます。
蟒蛇:落ち着いたら、きっと戻ってきてくれよ。この道を少し行ったところの、欅の木が 2 本立ってる後ろの洞穴が、俺の寝床だから。
田能久:わかりました。
蟒蛇:じゃあ、気をつけて帰るんだぞ。

　このようにして、田能久は麓に下り、これこれこういう訳と村人に話をすると、ウワバミ（蟒蛇）と交わした秘密をすっかり漏らしてしまいます。これはいいことを聞いたと、さっそく木こりたちが峠に上がり、ウワバミに煙草のヤニと柿の渋をぶっかけると、悲鳴をあげて雷雲とともに退散しました。田能久とウワバミのやり取りはまだ続きます。田能久は無事に村に戻り、村人たちと協力してウワバミを退治したこと話します。
　しかし帰ると、母親の病気は久兵衛（田能久）が１０日間も帰って来ないので、すっかり気を病んでいたのです。安心した田能久は一杯飲んで寝込んでしまうと、その夜、ドンドンと戸をたたく者がいる。出てみると、血だらけで老人の姿になったウワバミが立っていた。
蟒蛇:よくもしゃべったな。おまえがおれの苦手なものをしゃべったから、おれもおまえのいちばん嫌いなものをやるから覚悟しろ。
　ウワバミは、抱えていた箱を投げ出し、そのまま消えてしまった。開けてみると、中には小判で一万両が入っていました。

　この話は、田能久の機転とユーモアが光る一席です。村人たちにウワバミの弱点を伝えて約束を破ってしまって、村人たちは煙草のヤニと柿の渋を持ってウワバミ退治に出かけます。怒ったウワバミは阿波に帰った田能久の家に小判を大量に投げ込み仕返しをしたのですが、却って大金持ちになるという結末です。自分の得意点を極めるとか、知恵のある孝行息子は助かるとか、急場の機転が如何に大切か・・・・など、何を物語っているのでしょうか。

〇旭堂鱗林師匠の講談は『くすんだ薬玉』でした。

はじめに：★2024 年 9 月時点で、藤井聡太は「竜王、名人、王位、王座、棋聖、棋王、王将」七冠のタイトルを保持しています。彼は 2024 年 6 月 20 日に、叡王戦で伊藤匠七段に敗れ、この敗北により、藤井聡太は叡王のタイトルを失い、八冠から七冠に戻りました。これまで、瀬戸市に「３つある薬玉」が割れなかったことは無かったそうです。

八冠タイトルを失ったときは、どの「薬玉」割れ残り「涙でくすんだ玉」だったそうです。

〇次回の「幸福師匠おーえん会」の紹介。

落語や講談といった日本の伝統話芸を楽しむため、岐阜東高等学校同窓会では、「幸福師匠おーえん会」を支援しております。岐阜市神田の喫茶店「星時（ほしどき）」で開かれている「二人会」にお邪魔をし、伝統話芸を広めて行きます。老若男女どなたでも参加でき、日本の伝統話芸の面白さや意味の深さを知る機会を提供します。

次回は来令和６年12月7日土曜日7時（木戸銭2,000円）から星時で開催されます。「幸福師匠おーえん会」ではまとめて席をお取りしておりますので、是非、生（なま）の落語・講談を聴きたいと思われる方はご連絡下さい。

幸福師匠おーえん会　代表　坂井至通（12期卒）